

●13 日ホタルの集い、17 時から強い雨のため中止を連絡

金田さんは中止決定を電話連絡の他、集合時間に普賢寺小学校まで出向いていただきましたが誰もお見えになりませんでした。また 12 日の夕刻には下見をして当日に備えてくださいました。13 日を楽しみにされていた会員の皆様のために何としても開催したいものと粘りに粘りました。しかし 17 時頃から雨脚が更にひどくなり雲もさらに低くなりました。これではとても蛍は飛んでくれないだろうと見込んで深田理事長の意向を伺って中止の決定となりました。世話係をしていただいている金田さんとは木曜日に相談してホタルの集いの資料の作成を分担していました。金曜日の一日中をかけて参考資料を完成させました。今年はコロナウィルスの関係があって可能な限りシンプルな取組みになりました。

期待されて来られた皆さんには、いい資料をと情熱を入れました。また担当の金田さんは前日の金曜日の夕方に奥さん同伴で現地のホタルの出現状況の事前点検に八幡市から出かけていただくなど心を尽くしていただきました、そのほか受付名簿やスピーカや懐中電灯などの準備も行っていました。下調べの結果、予定地は勿論、農園付近の普賢寺川でも飛翔が見られたということでした。

翌日の日曜日は蛍の出現には最高のコンディションになりました。事務局会計を担当していただいている小川御夫妻とお子さんの三人で現地に出かけられました。予想をしていたよりも想像以上の出現に出会って大変感激したとの報告を頂きました。一昨年来の台風によって山が荒れて 2 年目になって少し落ち着いた様子で多くのヘイケボタルが昨年以上に誕生したのではないのでしょうか。中止はすこし残念でしたね。来年を楽しみにしましょう。

●13. 14 日木津川ワンド生き物調査予定【摂南グループ 放流で水位 1 m 増水で中止

蛍の集いの前日 12 日は大雨が予想されていました。もちろん 13 日も大雨予想でしたので木津川の水位は予備放流だったのか 1m の水位上昇とのことで 13・14 に予定されていた中聖牛の生き物調査が中止となりました。自然の動きはなかなか人間の動きに合わせてくれないものでした。

●ホタルの集いの資料集(オールカラー12 ページ)には蛍クイズ満載です。用意したクイズを知らせします 1 ホタルの命は何日? 2 ホタルは何を食べるの? 3 日本のホタルの種類数は? 4 世界のホタルの種類数は? 5 ホタルはどうして光っているのか? 6 いくら卵を産むのか? 7 ホタルの水中での餌は何? 8 卵はどこに産み付けられるのか? 9 日本のホタルの代表種の三種は、のクイズを用意しました。正解は各自で考えていただければと思います。分からない場合は fax 下さい、

●2020 年度京都府交響プロジェクト交付金のヒアリングを 15 日 13 時から山城広域振興局に出かけました。今年から振興局の担当職員ではなく NP O センターの寺村さんの手元での相談に変わりました。開口一番、事業のキャッチフレーズが長すぎて分かりにくいから短文化されるようにとご指導がありました。続いて地域課題が何か、この事業を通じて何を解決しようとしているのか明確にされるべきだ、等、急所を突いた指摘がされました。そして基盤整備事業だから今後自立していけるように参加費の徴収や寄付金集めなど財政面の改善を図られることも一考くださいと厳しい指摘を頂きました。

●玉ねぎの収穫 250 kg (大玉中玉小玉合計 830 個)

中玉 8 個・大玉 3 個 100 円で販売を検討中 混合 7 玉で 100 円のご協力金を考えています。2019 年までは農産物の生産量の集約がされておらず、売上金額のみの記録となっていました。農園での収穫量が集約されずになっていましたので、今年から生産量の集約を報告いただくことになりました。これらの記録を大いに活用して生産量アップや活用方法の改善に役立てられたらと思っています。

●理事長の深田さんからナスビとキュウリ、トマトそれぞれ 10 本程度の苗のご寄付を頂きました 農園での手間や収穫時の集中的な作業量の増加に追いつかず植え付けを手控えられたことで、深田

さんがこれでは寂しいと 13 日夕方植え付けていただきました。大変ありがとうございました。ちなみに収穫したタマネギ苗は大釜様から大量にご寄付を頂きました。里山の会とは 15 日遅れとなるので収穫時期も多少ずれる見込みなので大変興味深く期待しています。

●事務所での長年の雨漏りを 6 月初めにコーキングで有田さん大奮闘いただきました

目につく箇所を片っぱしから修理をして頂きました。13 日の昼間の降雨では一粒も漏れませんでした。しかし夜間の激しい雨ではふき取り雑巾 3 枚分の雨漏りがありました。一般的な普通の降雨は防げるようになりました。あともう少しで修復出来るのではないのでしょうか。

●山城地方の小学校の夏休み期間公表される

宇治市:8 月 1 日、城陽市 8 月 6 日、八幡市と京田辺市・木津川市:8 日から夏休みで、2 学期は全部そろって 23 日からとのことです。小学生の皆さんの夏休みが短縮されて大変ですね。里山の会はこの期間に 4 回程度親子で遊ぼう学ぼう魚とりを企画しています週刊ニュースにご注目ください。今年は新型コロナウイルスの感染防止から参加募集人数の制限が厳しくなり、里山の会の自主財源での会となりますので、参加費や保険料はご負担願うことになりそうです。またそれ程、屋外の取組みが行われません。

●イタセンパラの初心者向けの解説リーフ原案できました

●普賢寺小学校から 22 日月曜日の午前中に 4 年生が地域の自然観察に出かけます

できるだけ支援をさせていただきますと返答しました。田んぼでは早苗が大きくなり始め緑が濃くなってきました。カブトエビが活動をはじめます。一番元気な自然を大いに学んでいただきたいものです。

●梅雨が最盛期を迎えるころオオムラサキの羽化が始まりニュースが新聞をにぎわせます

里山の会では冬の昆虫観察会でオオムラサキの幼虫をかなり発見し、エノキの木に戻してきました。これまでパイナップルやバナナなどのトラップを使ってオオムラサキを及び寄せてきました。昨年は 1 週間にわたって観察を行ってきましたが失敗に終わりました。クワガタやカブトムシなどには効果がありましたが、オオムラサキは引き寄せられませんでした。今年は幼虫を放したエノキを網でスッポリと覆って広く飛び立つ成虫の確認後に覆うことにしました。そして確認の後に大空に放ち、榎に産卵できるように網を閉じることにしています。我々が計算したようにうまく機能しないと思いますが、新しい心試みを行ってみます。網掛けの予定は 20 日の午前中に行いたいと思っています。

9 《研究成果の河川整備・管理への反映》

本研究は、伝統的河川工法のモデル事例になるとともに、河床の浸食堆積傾向と地形・生息場形成機能との関係を体系化することによって、今後の河川整備や河川管理において、滑翔の土砂動態を管理する手段としても、伝統的河川工法の活用を促進することにおいてつながる。また、各地河川の樹木林や竹林化問題解決の手段としても、伝統的河川工法の活用が期待される。さらに本研究の事業委主体であるやましろ里山の会のような市民団体が河川事業に積極的にのかかわる参加型河川管理の推進にも役立つと考えられる。

現在までの研究成果を踏まえて、前ページの内容を修正・加筆してください

10 《背景・課題》

木津川下流では土砂供給の減少による河床低下と河道の二極化が問題となって土砂環境改善に向けた様々な対策が実施されている。適切な河床地形を目的変数として土砂動態を管理する「河床地形管理」の考え方に基づいて、竹蛇籠や聖牛などの伝統的河川工法を活用する河川環境管理事業が始まっている。ただし、伝統的河川工法が河床地形や生息場構造、生物群集へ与える影響に関する知見は乏しいために、それらの具体的な活用方針はいまだ確立されていないという課題が残されている。